

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
.理念に基づく運営	22
1.理念の共有	3
2.地域との支えあい	3
3.理念を実践するための制度の理解と活用	5
4.理念を実践するための体制	7
5.人材の育成と支援	4
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1.一人ひとりの把握	3
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作	3
3.多機能性を活かした柔軟な支援	1
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協	10
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1.その人らしい暮らしの支援	30
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
.サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容、事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】(アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホーム大曲はなぞの 2号館
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	秋田県大仙市大曲花園町25-28
記入者名 (管理者)	山内 幸
記入日	平成20年11月12日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域の人と同じ風を感じ、共有していききたいと考えている。そのために、積極的に市や町の行事、催し物への参加と、ホーム内行事に地域の皆さんにおいて頂いたり、町内会の一員としての広報くぱりなど、利用者と共に行い、自由な近所づきあいをしていきたいと考えている。</p>	<p>・救急救命訓練、防災訓練における消火器取扱訓練は、地域住民へも呼びかけて一緒に行い、理解を深め合っていきたい</p> <p>・2階のフロアを地域へ開放し、演芸の発表の場に活用してもらい、入居者・職員・家族・地域の皆で楽しんでいる。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>何よりも利用者本位という理念を第一にし、職員は技術の前に優しい言葉掛けを大切にして、利用者の気持ちに添いたいと話合っている。</p>	<p>職員全員が理念を念頭に入れた介護従事者であるよう、研修をはじめ日々のミーティングを行っていききたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>2号館2階のフロアを地域の方が自分達の日頃の歌や踊りの成果の発表の場として広く利用するようになり、それを利用者や家族もともに楽しむなどの活動が、少しずつ定着してきている。</p>	<p>入居者と地域の人との触れ合う機会を持つことによって、グループホームを理解してもらい、支えあえる関係を今後も作っていききたい。</p>
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>町内会の一員としての役割を果たし、交流によってお互い顔見知りとなり、季節の花や野菜を分け合うなどの、よい関係が出来ている。</p>	<p>職員は率先して地域や隣近所の人との関係を大切にし、今後も『いつも笑顔で挨拶を』をモットーにした関係作りを心掛けたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>ホーム設立以来、町内会に入会して町内の一員として交流を深めてきたおかげで、地元とは密接な関係が生れてきており、ホーム行事にも活気を与えている。</p>	<p>ナツメ口の会や歌・踊りの会と、ホームが共催の行事を地域の人や家族が楽しみに待っていてくれる。また、ホーム主催の芋煮会での交流も定着してきており、今後もこれを続けていきたい。</p>

グループホーム大曲はなぞの

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	年に1～2回、町内会の行事に参加した職員に、 同席の町の人から様々な質問を受け、それに答え ることで介護保険制度やグループホームについて 知識・理解を深めて頂いている。		ホームで働く職員は、職務をとおして得た知識・ 技術を、社会に向けて役立てる意識を持つことの 大切さを、会議等で話していきたい。
3.理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価に対して、身構えることなく 事実をありのまま伝え、素直に受け入れる気持ち を大切にしている。		評価内容を家族へ公表、また運営推進会議の資料 として活用し、意見をきき、評価結果と合わせて 前向きに検討したい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	毎回入居者の生活の様子、健康状態、認知症状の 変化に対するケア内容を、個人情報踏まえて報 告すると共に、職員からも発表してもらい、出席 者の意見・感想助言を頂いている。		認知症に対する理解と知識を深めていただくこと は、ホームを支援していただく上で大切なことだ と思われるので、今後も具体的に話し合いのテー マを設け、意見を聞き、サービス向上につなげたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	今年度は担当が地域包括センターの職員の方なの で、ホームの運営からボランティアの紹介等、細 かい面で話し合う機会があり、ホームのサービス 向上に役立っている。		ホームの運営は、市町村や地域との連携なくして よい運営は出来ないと考えている。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	管理者はこれらの制度について研修を受けている が、一般職員はまだ受講しておらず、どちらか といえば話題に上る機会が少ない。		一般職員もこれらの研修を受け、学ぶ機会を持つ ようにしたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	ホーム内では、拘束・虐待は絶対禁止であり、職 員にも徹底を強いている。 行いのみならず言葉の暴力も絶対禁止であり、見 過ごしのないよう、ミーティングで確認しあっ ている。		何気ない言葉で利用者を傷つけたりする事から大 きな虐待につながるのではないかとこの視点か ら、日常の声かけにも細心の注意を払っていきたい。

グループホーム大曲はなぞの

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書に基づき、説明をし、緊張を解きほぐすような雰囲気作りを考えながら行ないたいと思い、実施している。</p>	<p>多忙な家族とじっくり話し合える希少な機会でもあり、お互いに理解し合えるよう、十分な説明と、理解を得るように今後も留意したい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者がいつも自分の気持ちを管理者や職員に話せるよう、普段から雰囲気作りをし、要求、希望、苦情が自然に言えるようにしている。また、悩み相談室を設けて対応している。</p>	<p>利用者の権利としての自由を尊重することが出来るホームであり、職員であるべく、ミーティングや研修・報告等の折に確認をしていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月の請求書の発送に添えて、生活健康記録、写真による生活記録(はなぞの日和)、担当者からの家族宛通信で、状態を把握してもらえるように工夫しており、家族からも喜ばれている。</p>	<p>入居状況に変化があれば『たより』に載せているが、職員異動(退職、入社)については報告していない。但し、職員の紹介として顔写真はホーム内に掲示している。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に参加する家族は、積極的に意見・要望・感想を述べられ、運営に協力して頂いている。他の家族からも面会の都度、何か要望がないか伺っている。</p>	<p>良いホーム作りのために、家族の協力を必要としていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎朝、月1回のケア会議で自由に意見や改善等について話し合い、実行に移している。</p>	<p>意見や提案を積極的に発言し、発想できる職員作りを取り組んでいきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>通院介助等の必要な利用者、心身不穏な利用者に向け、勤務変更や勤務時間変更で臨機応変の対応がとられている。 職員はシフト希望を提出し、勤務外の生活の自由を確保している。</p>	

グループホーム大曲はなぞの

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>比較的職員異動の少ないホームであるが、スムーズな交替と利用者への心的影響に配慮している。</p>		<p>職員異動が最小限抑えられるよう、事業者・管理者は配慮を怠りなく実行していきたい。</p>
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>19 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>可能な限り職員は研修に参加出来る様、研修担当者が呼びかけを行い、事業所は費用の面で支援する等の対応をしている。</p>		
<p>20 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県認知症GH連絡協議会の実施する相互交換研修のほか、近隣の同業者と全職員が相互交換研修に参加し、学びあう機会をもっている。</p>		
<p>21 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>よりよいホーム作りのためにチームワークは欠かせないので、ストレスのない職場作りを目指し、ストレスを抱えている職員の相談相手をする。職員間の交流の機会を時々設けている。</p>		
<p>22 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の個々の良い点を発見し、自信をもって働けるような声かけをしている。年末には反省と抱負を作文にし、事業主に自己アピールをしている。</p>		

グループホーム大曲はなぞの

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ホーム見学をすすめ実際の生活の様子を見ていただくことからはじめ、入居に際しては家族・本人の思いを聴き、不安を緩和するように努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時の面接訪問の際、不安を抱かせないように話しかけ、さりげなく本人家族の求めを伺い、全職員がそれを受け止めるように努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族が、何を求めてホームへ入居希望されるに至ったか、経緯をよく聴き、支援に生かしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人にとって一番心が休まる事は何かを家族から伺いながら、ホームに馴染んでもらう為に声かけや席決め、他者との交流の様子等の気付きを記録し、必要なサービス内容を考えている。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>政治や歴史の知識のある人、月の満ち欠けに関心のある人、野菜作りに詳しい人等、利用者の経験に影響を受ける事も多く、それらを分かち合うことにより生活が満たされ、職員の仕事への充足感もうまれる事も多く、支えあう良い関係が生まれている。</p>	

グループホーム大曲はなぞの

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には心身の状態を詳しく伝えており、症状によっては家族と共に医師に相談に行き、内服薬の変更があればその後の様子を家族と共有し、本人の症状の安定を共に喜び合っている。		ホームだけが背負い込まず、困ったことがあれば相談に乗ってもらって関係作りをしていく。まかせっきりでなくホームと一緒に本人を支えあう関係を築いていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームで生活するようになってから本人と家族の関係が回復し、穏やかな会話が生まれるようになった例は数多く、敬老会や芋煮会等の行事に、一緒に楽しむ機会を設けている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、友人が自由に面会に来たり、出かけることにより、関係が継続出来ている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格や気持ちを把握して、食卓やお茶の席を決め、随時変更したりしている。そのためにも毎日のシーティングはていねいに行っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	自宅退居、他施設異動のための退居、入院退居等と、理由は様々だが、家族と出会う機会があれば近況を伺い、死亡広告を確認すれば甲意を表す等、利用者に対する変わらぬ気持ちを持ち続けている。		

グループホーム大曲はなぞの

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話や活動から入居者様の意見を伺い、また、御家族様の情報提供から、食事、外出先、楽しみ等を把握し、ケアや活動に活かすようにしている。</p>	<p>日常の会話や行動から、入居者様の思いや希望を把握するよう努める。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の訪問調査にて御家族様・本人様・担当ケアマネジャー等から生活状況について把握するよう努めている。</p>	<p>入居後も、折に触れてかつての生活史の把握に努めている。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入居者一人ひとりの生活パターンや興味、参加できる役割活動、こだわり、心身の状況を把握するよう心掛けている。</p>	<p>毎朝のミーティングや月1回のカンファレンスで、個々の状態の把握に努めている。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日頃から家族の要望を聞き、毎日のミーティングや月1回のケア会議において、長期・短期目標について検討のうえ作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的見直しと変化による見直しを行い、現状に即した介護計画に基づいたケアが出来る様、留意している。</p>	

グループホーム大曲はなぞの

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	午前・午後・夜間の各々の生活の様子を個別に記録しており、記録を元に介護計画の見直しに役立てている。		入居者の発した言葉やケアの気付きを具体滴に記録し、職員間で情報を共有している。
3.多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望、職員の発想等で、近在の公園や、遠足を兼ねてのドライブ等、自然に親しむ機会が臨機応変に行われており、グループホームの良さが発揮されていると思われる。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	町内会に属し、その行事に入居者も参加している。歌や踊りの演奏会など、近所の人達と一緒に聞くと、幅広い交流がある。かかりつけ医の協力で、インフルエンザ予防接種をしている。		外出困難な方は、ボランティアによる歌や踊りの提供や、年祝い行事でホームに訪問がある。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用する為の支援は、今のところしていない。が、その必要がある場合は、柔軟に対応していきたい。 図書館利用、ボランティア利用等の活用は活発である。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の担当者がセンター職員でもあり、ホームの運営からケアマネジメントに至るまで、相談・指導をうけており、ボランティア訪問理容も実現した。		

グループホーム大曲はなぞの

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時と同様なかかりつけ医の受診の希望がない場合は、協力医院にて対応している。協力医院は定期的に往診や急変時の対応もしてくれる。		定期受診は、可能であればご家族様へ協力をお願いしている。 受診の結果は、状態において随時と月1回の御家族様への通信にて報告している。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域に認知症状へ対応する医療機関があるので、スムーズに対応している。		症状の変化に合わせて情報交換や受診をし、症状の安定に努めている。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在のところ、非常勤で看護職員が勤務し、入居者様の健康状態の報告、バイタルチェック等の対応をしている。 状態について随時相談できる体制も得ている。		入居者様の状態に合わせ、随時看護職との連携に努める。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	現在まで早期退院のケースはないが、入院先との情報交換や入院後の状況把握に努めている。		入院が必要となった場合は、ご家族様と入院先との連携をとり、早期退院に向けての情報交換に努める。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	該当するケースの家族、担当医と、今後の方針について情報交換しながらすすめていくようにしている。		入居者様、御家族様の意向を踏まえ、主治医や看護師や職員が連携をとることが出来、その人らしく過ごせるような体制としたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在のところ終末期における事例はない。重度化の場合は、御本人、御家族様の意向を踏まえて、医療・看護・介護が連携の下にケアをすすめていくようにしている。		ケースごとによく検討をし、御本人様・御家族様の意向に添いながら取り組んでいきたい。

グループホーム大曲はなぞの

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	次の移転先には、御家族様の許可を得て出来る限り情報支援を行い、生活の継続性を保てるようにしている。		今後、希望のある場合は、御家族や住み替え先の施設等の情報交換を行えるように努めていく。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様一人一人に見合ったサービスを行い、言葉遣いや接し方に気を付けている。		認知症についての理解、対応等についての知識を深めていく。個人情報の取扱について留意していく。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	御本人様の意思表示を大切にし、また、声がけを行って思いや希望が叶うよう支援している。		外出や食べたいものなどの声に対し、ドライブ・外食等を実施している。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々のその日の気分や体調を見極めたくえて、声かけ等で確認しながら援助していく。		食事やお茶の時間以外は、入居者様個々のペースを尊重し、援助するよう心掛けていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	御本人・御家族様の意向によって、市内や行きつけの利用・美容院に出かけたり、出張理容を利用している。場合によっては職員が対応している。		外出やイベント時には、化粧をして来られる方がいる。身だしなみには、自分の家族だという思いで気を配るようにしていく。

グループホーム大曲はなぞの

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>季節に合った献立や郷土色を取り入れて、職員が献立表を作成している。</p> <p>食事の準備や盛り付け、後片付けを入居者様と会話しながら一緒に行っている。</p>		<p>個々の健康状態に合った献立作りにも努めていく。分量等にも配慮していく。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一定の飲み物の提供になっている。</p> <p>おやつは御家族様からの差し入れや、手作りお菓子等も提供し、楽しんでいただいている。</p>		<p>個々の体調等に合わせ、出来る限り御本人の嗜好を取り入れられるようにしていきたい。</p>
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している</p>	<p>一人一人の排泄パターンが違うため、介助を要する方へは行動や仕草を観察し、声がけや誘導にて排泄を促している。</p>		<p>便秘傾向にある方へは、かかりつけ医との連携や便通により食品等を取り入れて対応している。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>時間帯はほぼ固定しているが、御本人様のペースや訴えに添う援助を心掛けている。</p>		<p>出来る限り希望に添った援助に努めていきたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中は散歩や活動をすることで、生活のリズムを整えられるよう援助している。</p> <p>体調や希望を考慮し、個々に合った休息が出来るよう支援している。</p>		<p>生活習慣を把握した上で、休息や安眠ができるよう、支援していく。必要時はかかりつけ医へ相談していく。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者様個々の能力を発揮できる場面を作っている。また、感謝の言葉も忘れずに伝えている。</p>		<p>身体能力を考慮し、得意分野を活かせるよう援助していきたい。</p>

グループホーム大曲はなぞの

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金は持たせていないが、管理可能な方であれば小銭程度は所持している。		外出等、買物をする場では、現金で購入する機会を持たせたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者様の状態や天候により、お花見や効用見学、外食等は出かけるようにしている。		季節ごとの外出や、気分転換を兼ねての外出の場をつくっている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠出はしていないが、近場の図書館や自宅への外出・外泊を御家族様の協力も得て支援している。		入居者様の要望を踏まえた外出支援をしていきたい。また、御家族様の協力のもと、外出・外泊の支援も継続していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方や、手紙や贈り物をしたい方には、職員が取り次いだりして支援している。		必要に応じて、ご家族様等と連携をとり支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に立ち寄って頂ける様に声がけをし、状況によっては食事等を一緒にとって頂ける様に配慮している。		御家族様へは毎月ホーム便りで近況報告すると共に、イベント等への参加を呼びかけ、面会や訪問していただく機会を作るようにしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りケアを重視し、身体拘束しないことを申し合わせている。		身体拘束についての外部研修等への参加を、全職員に促していく。

グループホーム大曲はなぞの

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	夜間・早朝の時間帯を除いて、玄関には鍵をかけないようにしている。		日中は見守りケアにて、開放されたホームとしていく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日常生活の様子や行動パターンを把握し、事故のないように留意している。		日中の見守りケアに加え、夜間の見回りで居室を訪ね、安全確認に努める。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品類は施錠できるロッカーに保管し、洗剤類や刃物類は入居者の目の届きにくいところへ保管している。		職員の見守り可能な場で、ハサミ、包丁、針等を使用しての作業が出来るよう援助していく。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者様一人一人の日常生活の行動パターンを把握し、各種の事故が発生しないように努めている。 発生時は対応、報告等のマニュアルを定めている。		事故に備えた火災訓練を定期的に消防署の指導の下実施している。また、緊急時の警備会社とのシステムも契約している。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	急変時対応マニュアルによる取り組みや、救命処置の研修を取り入れている。		急変マニュアル、救命措置の定期的な研修に取り組んでいく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者担当のもと、災害防止のための訓練に努めている。		訓練時に地域の方々へ呼びかけ、協力を求めている。

グループホーム大曲はなぞの

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ケアプランの検討に合わせて、各々の御家族様と話し合いをするようにするとともに、必要時は随時電話等でリスクについて報告している。		面会やケアプラン作成時にご家族様とリスクについて共有できるよう話しあっている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者様個々のバイタルチェック、食事摂取状況、排泄状況を把握し、日常の健康面に配慮している。		定期的な健康チェック（バイタル・食事・水分・排泄）と共に、心身の状況や御本人様の訴えに留意している。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様このかかりつけ医の指示薬の理解と服薬に努めるとともに、変化がみられた場合は医師へ相談することとしている。		内服薬の管理徹底と、正しい服用を心掛けると共に、かかりつけ医との連携に取り組む。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者様個々の排泄状況を把握し、便秘症のケースについて食事、運動、内服薬等について検討し、対応している。		活動面では、散歩や運動を取り入れ、便秘症の方には野菜ジュースの摂取を勧めている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きやうがいを支援している。また、年1回の歯科往診による口腔チェックと、治療を要する場合は歯科通院の支援をしている。		歯磨き、義歯洗浄、うがいを入居者様それぞれの状態に合わせ、見守り、介助している。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	地域や季節の食材、栄養のバランスに配慮した献立作り、入居者様一人一人の食事形態に留意して提供している。		食事・水分チェック表により、個別に摂取量を確認している。また、食欲が出るよう、行事食や外食・出前等も取り入れて工夫している。

グループホーム大曲はなぞの

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルや研修会に参加することで、予防に努めている。		インフルエンザ予防接種の実施を、入居者様と職員とで合同で行う。 外出後、排泄後、調理作業前の手洗い・うがい等の徹底に取り組んでいる。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週3回程に分けての食材購入や、台所担当者のもと、布巾・調理用具・台所内の衛生管理に努めている。		新鮮な食材を購入し、使用すること。 台所の衛生面に注意を払い、調理前の手洗いを励行している。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や食事、居室への草花を飾ったり、庭に花壇やプランターを配置し、和やかな雰囲気作りに努めている。		季節に合わせた花や野菜作りを、入居者様と共に取組んでいくようにしたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な生活をして頂けるよう、カレンダー、絵画、草花、時計等を各共有スペースに配置している。		各共有空間の、その場にふさわしい環境づくりを心掛けていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペース部分に、ソファーや畳部屋等を設置し、入居者様が各々仲間同士のスペースが確保できるように配慮している。		玄関ロビー・廊下・食堂にソファーを設置し、入居者様がくつろげるスペース作りをしている。

グループホーム大曲はなぞの

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居者様の馴染みの家具や好みの品等を持参して 頂き、居室の雰囲気作りを心掛けている。		御本人様や御家族様の意向に添いながら、電化製 品等を安全な範囲内で持ち込んでいる。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	各所の換気に配慮すると共に、温度・湿度の観測 をし、暑さ寒さ対策に取り組んでいる。		各居室や共有スペースに温度・湿度計を設置し、 温度調整と健康管理に努めていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ホーム全体はバリアフリーとし、更に身体機能に 合わせてベッド柵の調整、トイレや浴室の補助器 具を使用している。		バリアフリー設計のため、入居者一人ひとりの見 守りケアを重視、自立支援に努めていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	入居者様の認識しやすい言葉や、目線に合わせた 場所へトイレ等の日常的に使用する場所の張り紙 や居室の表札掛けをしている。		入居者様が混乱することなく生活できるよう、必 要時は張り紙や表札などを検討していく。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ユニットの中間の庭に、花壇と東屋風のスペース を確保し、入居者様や地域の方々と交流の場とな るよう努めている。		春から秋にかけて花壇に花や野菜を絶やさず、育 て、収穫している。ホーム内や地域の方々を和ま せる雰囲気作りに取り組んでいきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

.サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが ○利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ほぼ毎日のように 数日に1回程度 ○たまに ほとんどない

グループホーム大曲はなぞの

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)